

10月27日に放送された、熊谷崇先生の「プロフェッショナルの流儀」　拝見いたしました。熊谷先生の熱い想いと患者さんの笑顔に心を打たれて涙が出そうになりました。

私は現在、臨床の現場では働いていないのですが、一企業の歯科衛生士として働いております。熊谷先生にも直接お会いしたことがあります。先生のお話を聞いて一番印象に残ったのは、「学び続けることが、ライセンスを取得した責任です。」という言葉でした。

酒田市に開業されたときに、患者様が来なくなってしまった時期があったとのことです
が、それを乗り越え、熊谷先生の強い信念があつてこそ、今、酒田市の皆さん歯が守られ、その先に幸せがあるのだと思うと、心が震えました。

患者様の真の利益を追求すること。その為には、まず情報を伝えすること。では、仮に患者様へ口頭のみでカリオロジーをお伝えしたときに、どれだけ伝わるのか…。

「むし歯の成り立ちと予防の仕方を説明するには、唾液検査は必要不可欠だ」と熊谷先生がおっしゃっていましたが、私も同じように考えております。しかし、唾液検査をしている医院はまだまだ少ないのが現状です。

「日吉歯科診療所が特別」ではなく、本来であれば、この診療の仕方が「当たり前」にならなければいけないと強く思います。恐らく、この番組を見られた多くの人は「この歯科医院に通いたい！」と思ったに違いありません。

では、自宅の近くの歯科医院に通ったら、同じようなことをしてくれるのか…というと、そうではありません。日本の歯科界は先進国に比べ、かなり劣っていると思います。これはそれを良しとしてきた日本の歯科医療従事者の責任だと思っています。

全国の歯科医院が熊谷先生のような診療所になれるように、臨床という同じフィールドではありませんが、患者様の歯の寿命を伸ばせるよう、私もできる限りのことをしていきたいと思っています。

最後になりますが、熊谷先生や日本の歯科医療について取り上げてくださったこと。また、改めて考えるきっかけをくれたプロデューサーの方に、本当に感謝いたします。

ありがとうございました。

～プロフェッショナル 仕事の流儀～

「ぶれない志、革命の歯科医療～歯科医・熊谷崇」を観た感想

「痛くなったら行く歯医者ではなく、痛くならない為に行く歯医者」最初からこのキーワードにとても感銘しました。恥ずかしながら痛くなってから、歯が汚れたかなと思ってからしか歯医者に行ったことのなかった私には、衝撃な言葉でした。

歯医者は痛いから行きたくないと丁寧にケアしようと思っても、ついサボってしまう。サボった結果また、むし歯や歯周病になり痛い歯医者に行くことになる。悪循環ですね。

番組をみてまずは治療をせず、クリーニングをして歯の状態と歯茎の状態を良くしてから治療を行う。出血も最小限ですむし、痛みも少ない。5回とはいいませんが、腫れがひどいので、1回位治療を先延ばしにして治療をしてもらったことはあります。しかし、ここまで自分の歯の状態がどうか、今後どのようなことが起こり得るか、今後どのようなケアをしたらよいかまで手厚く見ていただけた記憶はありません。治療して歯磨きの仕方を教えて頂いたのみでした。

「患者の意識を変えるのが狙い」「患者の人生に寄り添う」こんな思いで治療をしてくれたらどんなに喜ばしいか。山形県 酒田市のみなさんのように、60歳を過ぎ、80歳を過ぎても自分の歯でおいしそうに物を食べ、惜しげもなく歯を見せて笑う笑顔が素敵でした。体の健康診断と同じように数か月に1回の検査、メンテナンスの必要性をわかりやすくまた、温かく教えて頂ける内容でした。そして私も同じ思いをしたいと強く思わせていただきました。

しかし、メンテナンスを15年も行っている患者の、神経に達するまでのむし歯が発見された内容で、上手にケアできていない実情をあまり強くいうと患者がこなくなってしまうのでは?と強く言えなかったこと、また熊谷先生のセミナーを受けた、他歯医者では、同じような思いを貫くことができず、患者の要望により治療をしてしまい、その後メンテナンス方法を伝えることが出来ずに患者が離れてしまう事実を観た時、胸が痛くなりました。きっと私も忙しいから早くして、と言ってしまうのではないか?メンテナンスをしていることをいいことに、安心してホームケアを怠ってしまうのではないか?自分自身にも問い合わせる内容でした。

レントゲン、写真、唾液検査までして患者の未来を考えて、ライセンスを持つ者の責任を負っている姿をみせて頂いたことで、私の歯に関して手を抜いていたこと、甘えがあつたころ、心の弱さに、これではいけないと思わせて貰いました。これからメンテナンスに行き、自分の歯の一生を笑って見据えられる気がします。

また、唾液検査から癌の発見へのとりくみについては、まだ先の話かもしれません、期待をして待っていたいです。治療をしながら癌の発見の研究をしつつ、若い人の育成にも力を入れられている姿は、さすがプロフェッショナルと思いました。

この番組を観たことで、患者意識改革が浸透してむし歯のない未来、子供たちを夢見な

がら、自分も自分の歯の未来を考えさせてもらうよい機会となりましたこと、とても感謝しています。ありがとうございました。

「ぶれない志・革命の歯科医療」を見て

今まで何度か熊谷先生のご講演を聞いたり書籍を読んだりして持ち得ていた知識が断片的なものであることが判り、今回の放送を通じて「歴史」と「思い」をまとまりとして感じることが出来ました。仕事柄 今後自分が今の仕事を続けていく、ある種「自信」と「確信」を持てました。熊谷先生が目指している世界の実現を当社の自分の立場で実施していきたいと思います。

驚いたことが 2 つあります。一つは日吉歯科でメンテナンスを長期にわたり受けている患者様がカリエスを発症させたケース、またオーラルフィジジョンにご参加されて取り上げられた福岡の先生の最初の躊躇を「そのまま」放映された事です。熊谷先生のご了承を得られたのは勿論でしょうが、見られた方の中から「ほら見たことか」という反応が番組に寄せられる可能性があったと思われますが、にも関わらず敢えて「さらけだした」という事です。個人的には「そういう人には言わせておけばいい」と割り切ますがテレビ番組の影響力というのは自分の想像を超えるものだと推察しますのでネガティブな内容をそのまま伝えられたことに本当に驚いています。裏にある自信、またそれを含めて熊谷先生の「ぶれない志」を伝えられた内容は本当に印象に残りました。途中の患者様のインタビュー、最後の多くの笑顔も印象的でした。あのような笑顔が日本全国で見られるようになる事、そういう歯科医院の数を増やしていくこと、その歯科医院を支援していくこと、我々の仕事の究極の終着点があの酒田の皆様の笑顔です。

プロフェッショナル仕事の流儀を見て

お名前は聞いていましたが、映像で拝見するのは初めてでした。
とても柔らかくお話をされる先生だな、というのが印象です。

以前は歯医者さんは時間がかかるというイメージを持っていました。
治療の前に、5回の通院をしている患者さん。一見すると時間を惜しんでせっかちな現代の人たちには合わないのではと思ってしまいます。
しかし、患者さん達は納得し、何よりもこれからの自分のために何年もメンテナンスに通っています。

それはやはり、患者さんへの向き合い方にあるのではないかと感じます。
同じ目線に立って将来を考え、虫歯になってしまったことに残念がり、詫びてくれる。こんな風に寄り添い、共感してくれる先生はなかなか出会えません。
治療ではなく、悪くならないために行くところ、改めて「患者さんにとってより良い治療とは何か」をとことん突き詰める。という強い信念を感じることができました。

35年間の資料の束には、これまで会ってきたたくさんの患者さんの思いとその患者さんに対する先生の思いが詰まっているのだろうなと思います。
熊谷先生のご苦労をされながらも、貫いてきた思いが視えました。

「歯みがきよりフロスのほうが好き」という子供たちが出ていました。
小学校でもフロスの指導をするところもあると聞いたことがあります。歯みがきの一部、当たり前の生活の一部として広まってほしいです。
熊谷先生をはじめ、予防歯科に取り組む歯科医院とともに、ひとりひとりが笑顔でいられる楽しさをもっと伝えていきたいと思いました。

NHK 「プロフェッショナル仕事の流儀」

放送を拝見させて頂き、何をすれば、患者の為になるか、そのために何をするか、35年前に本質を見極めて徹底的にやり続ける強さと信念を感じました。そして、スタッフだけでなく、患者さんにも、理解して頂ければならないこと、そのために何を言われても、折れない強さは、何なのか。大抵は、福岡の医院になってしまふと思います。ここが大きな分かれ目だと感じました。本質が分かっているのに利益や目先のことに惑わされてしまう、いかにブレないでやり続けることで、患者は、勿論、自分に帰ってくること、先義後利だと改めて思います。また、逃げないとということに対して、番組の中で失態をさらけ出したことは、良い意味では信用をできると思います。素直にお詫びし、何がいけなかつたのか、患者と互いに確認し、理解することによって、改めて患者との絆が深まつたと思います。また、何十年も通つてゐる患者が多いのにびっくりしました。日頃のメンテナンスの際、患者とのコミュニケーションの取り方が、歯科医院の中で徹底されていることを感じました。最初は、熊谷先生から始まり、医院スタッフ、患者、全国の歯科医院と考え方が徐々に広がっていくこと、そして、次世代に引き継いでいく。痛くならない為に通う歯医者が全国に広がつていければと思います。自分は何をしたいのか。それをどのように発信し理解して頂くかを改めて考えさせられました。本質を見抜き、困難な道でも突き進む、情熱を持って、色々な人に理解してもらい、巻き込んでいくことが大切だと思いました。

プロフェッショナル仕事の流儀の感想

私は数年前まで、歯医者さん＝治療＝痛い・こわいというイメージしか持っていないかったのですが、歯科医院では治療以外にメンテナンスが行えて、むし歯の予防ができる事を知ってからイメージが変わり、歯科に通うようになりました。

この番組をみてさらに通っている歯科との大きな違いを感じたのは、予防ができるまで、治療を行わない、自分の歯を意識するためにレントゲンの見方など情報をたくさんもらえて、先生が生涯の予防を責任もって診てくださるという事でした。

私が通っている医院は、通い始めた当初は治療から始めて、それが終わってからのメンテナンス、予防でしたが、それとはまったく逆からなので、治療を始めるまでに自分の歯への意識を変える患者さん教育が大事だという、強い信念を感じました。

また、その考え方を持った次世代の歯科医の教育を行っているということが、患者さんが全国どこへ行っても安心して通える歯科医院を作る為で、患者さんをいちばんに思っての事というのも感動いたしました。

熊谷先生のような思いの先生を身近で探すのは難しいのかもしれません、この番組で得られた情報は、今私がお世話になっている先生のお話を聞いたり、質問したりする時に役に立てたいと思います。

プロフェッショナル仕事の流儀 ぶれない志、革命の歯科医療を観て

熊谷先生が取り組まれている歯科医療については、お取り組みに関する情報や知識を得る機会が多いので、放映された内容についてはそういった知識がさらに深まりました。

先生の徹底した先生の取り組みを拝見し、現代の歯科医療へどれだけ影響をあたえているだろうと、あらためて身震いする思いで番組を見させていただきました。

私が大きく心を打たれたのは「逃げない、ブレない」という先生のお考えです。さらには「自分だけの想いを伝えず、正攻法で」という方法についてもお話ししていただきましたが、この考え方というのは何かを成し遂げたいとき必要不可欠な考え方（要素）ではないかと考えさせられました。目標（ゴール）の大小を問わず必要なことではないかと解釈しました。

私も普段からは「逃げない」という想いは誰にも負けない「正攻法かつシンプルに」という部分を実践していると自負している部類ですが、これはもしかするとただの自信過剰なのではないかと自問自答するに至っています。

今回の特集については、きっと歯科医療そのものに大小の波を、風を吹かせるそんなきっかけになると信じるに余りあるお話だったと確信すると同時に、私自身の仕事（歯科医療臨床の現場ではありませんが）そのものに向き合う、そういうきっかけになったのは事実です。

「逃げない、ブレない」

分かっていても目を背ける人が多いですが、この考え方は私にとって一生の核となるお言葉になると思います。これを思い出すことで自分自身から逃げたくなる部分へ堂々と向き合う力にしたいと思います。

最後に、特集をご快諾いただいた熊谷先生はもとより、制作に携わられた番組スタッフの皆様に感謝申し上げます。

ありがとうございました。

「プロフェッショナル仕事の流儀」番組感想

高齢者の現存する歯の数から始まり、子供の8割以上が20歳まで永久歯にむし歯ができない地域。世界的に稀なケース。正にプロフェッショナルな仕事の流儀！

番組冒頭から興味をそそられました。

健康は歯からと普段思いつつ、痛みを治してもらう歯医者より痛くならないための歯医者に通い、虫歯や歯周病の原因と悪化させる因子を調べ、発症させないように口の健康を総合的に管理していく予防歯科の大切さが良くわかりました。

プロである歯科に自分の口の中の状態を調べてもらい、自分の歯を知ることによって予防歯科への意識が必然的に生まれると思います。

患者である自分が求めることは痛みの治療ではなく、自分の未来を守るため、将来的な健康という恩恵に与るため、時間を惜します定期的に歯科での唾液検査や歯のメンテナス、自宅での歯みがきプラスαの毎日のケアを続けることを再認識しました。

NHK「プロフェッショナル仕事の流儀」を見て

放送を拝見しました。

「患者が歯を守りたいという意識を強くもってこそ、予防は成功する。」という言葉が、とても印象に残りました。個々の口の中を知ってもらい、患者さんが治療しなくてはならないという意識に変える。歯医者は、痛くなつたら行く場所。痛みを取り除いてくれるだけで構わない。大半の方が考える常識を、変える所から根気強く取り組む姿勢に、感心するのはもちろん感動すら覚えました。

健康な歯でいる事の有難さを、改めて実感する事が出来ました。あんなに一人ひとりに向き合って考えてくれると、患者さんも感謝の気持ちになると思いました。テレビを見ただけの私でも、これだけ伝わってくる熊谷先生の思い。実際に通院されている患者さん達を羨ましく思いました。

外国で予防歯科に対する意識が高いという話を聞きます。日本でも最近、虫歯にならない為に歯医者に通うという方が増えています。唾液検査を実施して患者さんの口の中がどういう状態かを説明する手法、そのデータを何年間も保管してくれる。自分の口の中が良い状態に変化している過程も確認して、治療やアドバイスをしてくれる事で、患者さんとの信頼感もより強くなって患者教育が浸透していくのではないかと思いました。

ぜひ熊谷先生の思いを受け継ぐ歯科医院が増えて、私の家の近所にも出来る事を期待してしまいます。私も、今まで以上に、「メンテナンスをして健康な歯を保つ」という意識を強くしました。

拝啓

「プロフェッショナル 仕事の流儀」を制作された皆様。

10月27日の熊谷崇先生の放送を拝見させていただきました。私は番組中で紹介された唾液検査やフロスを製造販売している企業の人間です。その点では一般的な視聴者とは異なりますが、この番組の持っている意味や意義への感動をぜひ皆様にお知らせしたい思い筆をとることとしました。

まず、番組を見て率直に感じたのは、「本当のこと」を伝えてくれているということです。虫歯や歯周病の予防が可能であることは、予防の会社にいる私たちには分かっていますが、多くの日本国民は、そのことを知らされていません。そこには、歯科医院および歯科医師の都合が大きく関与していることを私たちは目の当たりにしてきました。つまり、歯科医師の仕事は、「悪くなった歯を削って治すこと」であり「悪くならないようにすること」ではないというあり方です。その理由は、はっきり言えば歯を削って詰めた方が楽に利益になるからという自己都合です。そうした歯科医師のあり方を問い合わせし、本当の歯科医師の仕事とはなんなのか、本当に患者さんが求める、さらに社会に貢献できる歯科医療を突き詰め、実践してきたのが熊谷先生という人間だということは端的に伝わったと思います。

実際に番組中に予防の重要なアイテムとして紹介されたフロスも、なぜ日本人には定着していないのか。その理由も私たちは知っています。歯肉炎の改善はフロスをすることで可能ですが、そのために時間をかけて患者さんに教えることは割に合わないと歯科医師が考えているからです。それを歯科医師たちはどのように自己弁護してきたのか。その言い訳が「患者さんはめんどうなフロスはしない」「不器用でできない」です。そう全てを患者さんの「せい」にしてきたのです。

それが番組では、新規開業した福岡の先生の「ぶれ」、唾液検査を含む検査や歯科衛生士による口腔清掃の前に「患者が望むから治療を開始した」ということにもつながっていきます。患者さんが十分な情報や知識を歯科医院から得る前ならば、「早く治療をして歯科医院通いをやめたい」と考えるのは、当たり前です。それを理由に歯科医師がすることを熊谷先生は、「目先の患者さんの利益」におもねる立場だときっぱり言い切れます。そして「長期的な患者さんの利益」をこそ歯科医師はかかるべきだと言う。

多くの先生がここを乗り越えられないことも、私たちは見てきています。そして熊谷先生がここを乗り越えられた理由をはっきり知れたのが、今回この番組で私自身が最も感動した点です。経済的にどんなに苦しくなっても、後にひかない。いわば大義への覚悟、「ぶれない志」を持っていたからだということです。それがこの番組を単なるすごい歯医者のサクセストーリーではなく、人としてのあり方や生き方を考えさせる深い感動をもたらすものにしていると思うのです。さらに失敗症例もオープンにする度量の大きさもこの番組の説得力を上質なものにしているなあと感心いたします。

本当の意味での歯科医療を実践している本物の歯科医師がこの国にもいること。そしてそれをを目指そうと葛藤している歯科医師もいること。それらを通じて、患者さんが、視聴者である日本国民が、ゴシップ的な観点ではなく、自分たちが望む歯科医療を問い合わせする重要な契機を与えてくれた番組だと思います。

書かずにはいられなかった気持ちに免じ、乱筆乱文ご容赦ください。

敬具

この番組は私にとっていつも見る度にその主人公の歴史に強く惹きつけられ、入りこみ、見えないパワーを受け取って自分の中に不思議と力が湧いてきて、最初から最後まで目が離せなくなる番組です。番組を見終わった後に、もう少し詳しく知りたい、長く見たかった…という余韻に浸ったり、人の生き様をこの1時間以内の限られた枠の中で表現するということは、どんなに難しいんだろう等ということを感じながら見ています。

今回のプロフェッショナルも印象的な場面は沢山ありましたが、熊谷先生が、メインテナンスに定期的に来院されているにもかかわらず、かなり進行した虫歯ができてしまった患者さんの症例を見た時の衛生士さんへの言葉、表情・患者さんへの対応の様子や、同じ方向観を持った医療従事者の方々の前で、唾液検査なくして患者の意識を変えることはできない、それは今までの結果として実証済みであること、カリオロジーはそんなに生易しいものではないとはっきりと述べたところに、熊谷先生の揺るがない志がはっきりと見え、特に印象に深く残るシーンでした。

患者さんのその時の必要性に応じた要望に応えて終わりのような診療ではなく、患者さん1人1人の過去・現在、そして将来という生涯を診て、患者さんの健康をずっと守り続けていくという自分の使命を本気で理解し、苦難をものともせず、まっすぐに立ち向かい続ける姿勢と、「何のために」が決してブレない真の強さと情熱が、結果として、こんなにもたくさんのキラキラしたものを創り出せるということに感銘を受けました。

今まででは、熊谷先生が言う言葉だから、カリスマ的な存在の人が人に話すから、人が心から信頼し、納得していくというところもあるのかなあと正直少し思っていたところもありましたが、現状に行き着くまでの彼の道のりは、ブラウン管を通してだけでも想像を絶するものであったということがわかり、光があれば必ず影がある、影の部分は周りからはやっぱり見えにくものだということを感じさせられた時間でした。

この番組を見た医療従事者、もしくは一般の方々が、痛くなったら治療すればいい、虫歯になつたら歯科医院へ行けばいいという対処療法的な考え方から、より健康であるためにきちんとした予防をしていきたい・歯科医院は予防のために行くところなんだねという考え方へ少しでも意識が変わったり、自分の口腔内やフロスなどのセルフケア・リスク検査に新たに興味が湧いて、何かしらの行動に結びついたら、それはとても理想的なことだと思います。ただ、人は新しい情報が、すでに持っている知識や経験と結びついた時、リフレクションを起こして、初めて新たな知識や知恵をインプットできる生き物である以上、すぐに見た人全員が行動に移るということはやっぱり難しい、だからその可能性を少しでも上げられるよう、色々な方法を使ってあきらめずに情報を発信し続けること、逆に新しい情報をこちらからも積極的に受け取り続けていくことも大切だということ、人を動かせるのは人だけであることも改めて教えられた気がします。今回のプロフェッショナルも、番組を見た多くの人に大きなインパクトを残し、リフレクションを起こさせるストーリーだと強く感じましたし、そうあって欲しいと心から思いました。ありがとうございました。

番組を見て、小さい頃にこういう考え方の先生に出会えていたら！と思いました。

VTR にててきた患者さんは、どなたもとてもきれいな自分の歯をお持ちでした。そして固いスルメも食べ歩いて、楽しい生活を送られているのだと伝わってきました。

これだけ証明されていることが世の中に普及しないなんて、一患者としてとても不思議に思います。なぜ歯科医院では教えてくれなかつたのでしょうか。

私も今まで、歯医者は痛くなつてから治療してもらうところ。そして年を重ねるごとに歯は失っていくものだと普通に思っていました。

入れ歯が取れちゃうおじいちゃんなど、マンガとかにもよくでできますよね。それがあたりまえなのだという感じです。歯が抜けてしまうことに対して危機感もなかつたのかもしれません。きっとほとんどの人がそうだと思います。

歯の磨き方の指導を受けてもなかなか反映しないし、治療が終わつたら行かないの繰り返しだったのは、私自身も歯に関心がなく、きちんと聞いていなかつたからだと反省しました。

年を重ねても歯があるって幸せなことだと知つていれば、むし歯にならないようにもっと気を付けていたのかなと思うと、やはり早くこういう歯医者さんに出会えることが大切なんだと感じました。また、小さいうちから通うためには、親も歯に関しての知識を持っていないといけないですね。

本当に、熊谷先生のような虫歯にならないために見てくれる先生がもっと増えてほしいと思います。

熊谷先生の NHK プロフェッショナル流儀の感想

10月27日放送の「ぶれない志、革命の歯科医療」をテレビの前で、瞬きする時間も惜しいと思うくらい、見入って拝見させていただきました。

熊谷先生という1人の歯科医師（もちろん、日吉歯科の先生・歯科衛生士・スタッフの皆さんも含め）を通して、日吉歯科に通う患者さんたちの輝いている笑顔がとても印象的な番組でした。

現在、多くの日本人が「歯医者は歯が痛くなったら治すところ」という認識でいると思います。しかし、この番組を見た一般視聴者は、その概念を覆されたのではないかと思います。「痛くならないために歯医者に行く」と。

昨今、メディアでは「体の健康はお口から」という内容の情報が飛び交っておりますが、今回の放送でそれが根拠づけられたのではないかと思います。

それは、熊谷先生と同じゴール「患者さんが健康でいられる人生」を目指す私たちにとって大きな一歩になりました。

また、この放送は医療従事者の方にとってとても有意義なものになったと思います。本当の「患者さんのために」とはなんなのかを考えるきっかけになったと思います。

患者さんの要望にただ応じるのはサービス業と一緒に。そうではなく歯科医療のプロフェッショナルとして「患者さんの人生に関わっていく」という信念を貫きとおした熊谷先生の人生は、多くの医療従事者の方の手本となり目指すところになったろ思います。

実際にこの放送をみて、搔き立てられた歯科医療従事者の方はたくさんいらっしゃいました。きっと、放送の翌日から、前日までとは違う気持ちで患者さんに向かっているのではないかと思います。

熊谷先生の医療従事者としての姿勢が、たくさんの医療従事者を刺激し結果的に患者さんの人生につながる。そんな未来を想像しました。

日本中の市民が、日吉歯科の患者さんのような何歳になっても自分の歯で食事をし、素敵な笑顔でいられるようになると改めて思いました。

これは個人的な意見となります、熊谷先生が「逃げない、ブレない志」「徹底した患者教育」で35年以上戦い続けた結果、診療所に通う子供の8割が20歳になっても虫歯が1本もできない・80歳を過ぎても全国平均の倍以上、25本前後の歯が残る人がいるなどの世界的実績を上げている。ただ、その結果だけではなく、実際に患者さんの様々な生活、そして素敵な笑顔・人生を垣間見ることができたのが、オーラルケアの社員として働く上で、目指すゴールの確信を得ることができました。

改めまして、素敵な放送をありがとうございました。

かつて歯科医師として働いておりましたが、予防のない歯科治療に疑問を感じておりました。 目先の虫歯しか見えておらず、患者さんの求めていたものに応じるだけだったのかもしれません。

今は施設や病院へ口腔ケアを広げる為に営業にまわっております。

歯を見て人を見ない治療の結果が、施設の入居者さんであったり、病院に入院されている高齢者の方たちの口腔内だと感じました。

患者さんにとっては、今ある虫歯だけを治療してもらえばそれでいいわけですから、患者さんの教育にはとてつもない困難と、ご自分を信じ切る力が必要となりますが、それをやり遂げて結果をだした先生の生き方は素晴らしいと思います。

大学での歯科医師、歯科衛生士の教育に、患者さんの将来を見据えた治療という先生の概念を組み入れてほしいと願います。

プロフェショナル 仕事の流儀
「ぶれない志・革命の歯科医療 歯科医 熊谷崇」 の回 製作プロデューサー 様

いつも楽しく番組を拝見しています。毎回、番組では様々な分野の第一線で活躍されている、バイオニアやトップランナー、革新者たちに焦点を当て、その人のプロの職業人としての仕事ぶりと人間的な知られざる一面も知ることが出来るのでいつも大変興味深く拝見させていただいています。また、この番組を見る度にプロの仕事や考え方を知ることが出来、自然とやる気が出るのを感じます。私は、歯科業界に携わっている者なので、特に今回の番組は楽しみにしていました。

番組を見て、一番私の心に響いたのは「ライセンスを持つ者の責任」という言葉です。単に歯科医師のライセンスを活かすというのであれば「歯科医師免許を持つ者が、技術と知識を駆使し、患者の治療を行う（歯を削る、埋める）」という方向へも行きそうなところです。しかし、熊谷先生はその道を選ばず、立ち止まり、このままで本当に良いのか？と、ご自身に問いかけられ、予防歯科を実現されたところに大変感銘を受けました。「ライセンスを持つ者の責任」。とても重い言葉だと感じました。

奥様の実家の酒田へ移り、口腔内が崩壊している人々を目の当たりにして転機が訪れ、医療人として、人として、目の前の歯だけを見る（診る、看る）のではなく、来院された人の人生を見る（看る）ためにご尽力された様子が大変よくわかりました。地域の患者さんの半数の理解を得るのに 15 年。とてつもなく長い期間であったと想像できます。そして、更に 5 年をかけて患者さんを教育し、予防の概念を理解してもらい、定着させる取り組みを行い続けたのだと感じました。これを実現させるために 20 年間、信念を貫き、ぶれずにまっすぐ進まれた熊谷先生の姿勢は本当に尊敬の念を抱きました。

また、同じ志を持つ後継者の育成にも力を注がれているという事で、熊谷先生と同じ理念をもった歯科医院が日本国内にたくさん増えていくことは大変嬉しい事であると思いました。その一方で、放送で触れられていたのが、勉強会に参加しても同じスタイルで診療を行える歯科医院は“たった 1 割”との事。それを知り熊谷先生が予防歯科の普及を実現されたその陰にはたくさんの困難があり、大変険しい道を選び、その道を進んできたからこそ今があるだと感じました。

放送に出ていた岡先生は、予防歯科の実現のために、まさに険しい道を歩み始めたのだと感じました。「予防歯科を行う」「すぐに治療はしない」「教育が先」と心に決めて、目の前の患者さんから、「今すぐ治療をして欲しい」と言われると、その要望に応じてしまいたくなる。そしてその患者さんの要望に応じると（治療すると）再来院しなくなる。“患者の口腔内への意識を高めるには、粘り強く患者を教育し続ける事、どんな困難があっても予防歯科のスタイルを守り、継続するという強い意志が必要である”という事が岡先生の悩みや失敗と、そのスタイルを実現し、確立された熊谷先生のお二人の対比で浮彫になっていて非常に印象的でした。

熊谷先生は、ライセンスを持つ者として患者さんの要望に単に応えるのではなく、患者さんを教育し、患者さんと一緒に歯を守っていくというその思いを貫いて責任を果されているのだと強く感じました。

患者一人ひとりが自分の口腔内に興味を持ち、「自分の歯は今何本あり、どこの歯が誰に治療されているかを理解している」これを知らない一般の人は多くいると思います。私も恥ずかしながら歯科業界に携わるまで、自分の事なのに答えられませんでした。

「なぜ、自分は虫歯になったのか」、「自分が虫歯にならないようにするには何が必要なのか」そこを丁寧に伝えていくことの大切さを知らされました。また、その理由は個人個人で異なるため、その患者さんにあった指導をしていく必要がある。そのために、先ず、口腔内を知ることができる唾液検査の重要性を再認識いたしました。口腔内の状態を知るツールとして、そして患者さんの教育ツールとして、とても重要な役割を果たしているのだと感じました。

メインテナンスに通っていた患者さんが虫歯になってしまったケースは、正直なところ、患者さん、先生、担当衛生士、みんながショックだったと思います。ここから感じた事は、たとえ患者さんがまじめにメインテナンスに通っていたとしても、通うことには熱心でも、セルフケアは熱心に行わなかった結果なので、実はその患者さんは自分の口腔内に対してどこか他人事だったのかなという印象を受けました。年に数回メインテナンスに通ったとしても、残りの約360日は患者さん自身が自分でセルフケアをするのだから、しっかりと自分の歯を自分で守れるように、患者さんへ予防の指導をし、患者さんに当事者意識を持ってもらう事がとても大切と感じました。

山形県にはカリエスフリーの子供たちがたくさんいて、とても素晴らしいと思います。私は、カリエスフリーではないので、これ以上は虫歯を増やさないように、メインテナンスとセルフケアを頑張っていきたいと更に強く思いました。

番組の最後に、歯がある元気なお年寄りたちのたくさんの笑顔がとても印象的でした。

「虫歯は予防できる」「歳をとっても自分の歯があるのがふつう」「歯があるから人生が豊かになる」という概念が日本の常識になることを心から望みます。熊谷先生の思いと同じ歯科医院が日本中のどこにでもある、そんな日本の未来を希望します。

今後もプロフェショナルの放送を楽しみにしています。素敵な番組をこれからも作り続けてください。

『プロフェッショナル 仕事の流儀』を観て

(33歳 女性)

まず強く感じたのは、「自分もこんな先生に診てもらいたい」という思いです。そして一番印象に残った場面は、むし歯を発症してしまった患者さんに理由を説明し、謝るべきを謝り、指摘すべきを指摘し、最終的に出た言葉が、患者さん(顧客)に媚びるのではない意味での「よろしくお願ひします」という言葉。その後のナレーションで「患者と歯科医師はパートナー」と表現されていましたが、まさにその通りだと感じました。

また、願いとしては、このような歯科医院がいたるところにできてくれればよいと感じました。というのも、私は、歯科医院は「むし歯ができていないかチェックアップに行くところ」だと思ってきました。自分なりに、何度も繰り返してきたむし歯を作らない為にはどうしたらよいか、と考えチェックアップに通うようになりました。大人になってからだけでも5~6件の歯科医院で、チェックアップに来院した旨を伝えましたが、一度としてメンテナンスを勧められたことはありませんでした。もっと早く、こういった先生に診てもらえていたら、既に大きく削られている治療済の歯は、もっと小さな処置で済んだのではないか、また、セルフケアに何が必要なのかも、もっと早く知ることができていれば、そのむし歯自体もできていなかつたかもしれないと思います。

現在、私は歯科医療に携わる仕事に就いています。この仕事に就くまでは、歯科医院で、チェックアップ以上にできることがある(メインテンナンスを定期的に受けること)ということを知りませんでした。歯科医療従事者がまわりにいない限り、一般の人は、歯科医院がメインテナンスに通うことができる場所であるということを知らないと思いますし、知る術も限られているのが現状だと思います。歯を守る方法があっても、それを知らないことには何も始められない。なので、TVで取り上げてくださったことは、私たちに気づくチャンスを与えてもらったことと嬉しく思います。

あと一つ、印象深かったのは、福岡の先生の実例をはじめ、熊谷先生のセミナーの受講医院の中でも、その真意を体得し継続していっている医院は一割に過ぎないというところで、番組の中でも何度も出てきた「逃げない」という姿勢をブレずに貫くことの難しさを感じました。熊谷先生は、歯科医として貫いてこられましたが、私にだって、規模は全然違うけれど、当てはまることがあります。

最後に、子どもがいる身として、医療費の削減という大きな意義も含めて、これからのお子さんたちには、こういった歯科医療を受けて欲しいと切に願っています。そしてその子達に迷惑を少しでもかけないように、私たち親世代も自身の口腔管理を怠ってはいけないと思っています。そのためにも、こういった理念が、歯科医・患者に広がり、少しでも明るい未来をつくれたらよいなと思いました。

番組ではあまり取り上げられてなかつたのですが、行政や保険制度と戦っている熊谷先生は本当に頭の下がる思いです。現状保険制度に擁護されていない予防を実践することで歯を守ることができるというデータを地道に積み重ね、証拠を持って自分の理想と考える治療を患者さんに提供し続けていることが本当にすごいところだと思いました。8020がスローガンのようにあります短期间的なビジョンとして20歳で8割以上が永久歯に虫歯ゼロを目指している。これは常識の範疇を超えた常識外の発想だと思いました。

歯科業界で働いていて感じるには、熊谷先生のように先をいっている先生がいることで後に続くものがどれだけ支えになっているかを伝えたいと感じました。

「プロフェッショナル～仕事の流儀」 第242回 2014年10月27日放送
『ぶれない志、革命の歯科医療 歯科医・熊谷崇』を視聴して

「自分の口の中に何本詰め物があって、いつ詰めたか、誰が詰めたかも分からないと。お任せの診療をされているので、情報が閉鎖されちゃっている。」

「歯科医療っていうのは今、その時に食べられればいいんじゃなくて、長くもたせることが問題なので。自分の歯でできれば食べさせたいってことが目的なので、本当にその患者さんの人生を診てるわけです」

よくぞ、ここまではっきりと、保守的な既得権益者集団となってしまった感のある現在の歯科界の問題点に切り込んでくれた！というのが率直な感想です。厚生労働省・日本歯科医師会は、ある意味ではその歯科界の中心に存在するわけなので。

今回のプロフェッショナル＝熊谷先生がご自身のスキルやクリエイティビティをもってよりも、マネジメントとして凄さを發揮しておられることからどのようなストーリーにするのかと興味深く見ていました。蓄積されたデータを通して行動してきた凄さを、後半に岡先生の迷いを組み込むことで「ぶれない志」を保つことそのものの凄さが浮き彫りになり、いつも通り限られた時間に中にエッセンスが凝縮された番組を楽しむことができました。

熊谷先生が何と闘ってきたかを聞いたことがある者としてみると、酒田での開業以降が「患者さんの意識」のみを相手にしたものだった印象になっており、厚労省、保険行政、歯科の過去に対して、ぶれない志をもって闘いを挑んできた部分がないぶん物足りなさを感じたことは否定できません。（ここに切り込むのは無理だと承知していますが。）

もうひとつ、高齢になっても歯がある人生を送っている人々の声がたくさん入っているのは良かったのですが、たくさん入れた分、熊谷先生の言葉にあった「その患者さんの人生を診ている」ことが感じにくかった点も少し残念に思いました。お一人だけでも少しストーリーを追ってもらいたいと見ながら感じていましたので。

予防を文化にすることをビジネスにする企業で、熊谷先生がオーラルフィジシャンコースを通して進める予防メインテナンスの普及に別の形で取り組む一人として、その役割の重みとやりがいを改めて感じさせていただきました。

NHK プロフェッショナル スタッフの皆さま

私は高齢者の口腔ケアに携わる仕事をしています。

一般的な歯科に勤められている歯科医師や衛生士の方が、施設や病院で高齢者の口腔内を見ると、その状況に衝撃を受け、どうすればよいのかわからないそうです。

今回のプロフェッショナルで熊谷崇先生が行われている“患者教育”や“治療から予防へ、痛みを治す歯医者から痛くならないための歯医者へ”という革命は、今後高齢者へとなる人々の口腔内にとどまらず、全身の健康に大きく関わってくることだと思いました。

子供の頃から予防をしっかりと行っていくことで、年老いてもほとんどの歯を残すことができ、口から食べ続けられる。それは全身の健康へと大きく関わることで、健康寿命を延ばすことに繋がります。

これから迎える超高齢化社会において、もしこのまま“治療する歯科”ばかりだったら日本はどうなるでしょう。

一緒に番組を見ていた母（66歳）が唾液検査の部分で「結局は時間とお金よね」と言っていました。やはりそう思っている方が大半だと思います。だから“患者教育”が必要で何よりも大事なことなのだと思います。しかし、“患者を教育する”ということは、私の母の様な考えが大半の世の中で、個人の力では限界があるかと思います。

熊谷先生も番組内でつらかった時期のお話をされていましたが、それでも熊谷先生は個人でとどまらず、後進を育成され、大きく日本中へ広めようとされている姿にとても感動致しました。

私自身が年老いた時、歯が何本残っているでしょうか。最後まで口から食べられているでしょうか。

今からでも遅くはないと思ってはいますが、これから大人になる子供たちには、もっと早く“治療ではなく予防”を受けさせてあげて、私の様な職業が無くなるくらいの世の中にいつかなればいいなと思いました。

NHK プロフェッショナルを観た感想

プロフェッショナルを観て、感銘を受けたことは熊谷先生の信念についてです。「もし自分が歯科医師だったら…」と考えた際、目の前に痛みを訴える患者がきて、すぐ痛みを取ってほしいと言われたら、治してしまうのではないかと思いましたし、逆に自分が患者の立場であり、部活が忙しいからあまり通えないので治してほしいと思っていたら、しっかりと説明がなければ、「この歯医者はすぐには治してくれない」という印象を持つてしまうのではないかと感じていました。ですが、熊谷先生は、写真やレントゲンなどのツールを用い、しっかりと説明をされていました。患者の立場として、治してほしいと思っていたとしても、しっかりと説明があり、先のことを考えるのであれば、クリーニングをしてからの削るのは最低限にした治療に大きな意味があることに気が付くことが出来ると思います。目先のことになるとらわれず「人の将来を見る」とおっしゃっていた熊谷先生の信念に大変感銘を受けました。

それと関連した内容になるかとは思いますが、だ液検査を続けることが出来ないという福岡の先生がいらっしゃいましたが、「もし私があの先生の立場だったら」と考えたとき、岡先生のお気持ちがすごくよく分かってしまいました。逆に患者としてあの医院に来院したとしても、治してもらえたとしたら有難うと感謝の気持ちを持つと思います。ですが、そう感じた分、熊谷先生が気持ちを込めて、検査の大切さをお話しされていたのが、大変胸に響きました。全体を通して、歯科医師としての熊谷先生と一人の人としての熊谷先生がどのように信念を持って人を診ていらっしゃるかという意志の強さを感じることのできる番組内容であったと考えております。

私は歯科医師でも歯科衛生士でもなく、いち患者に近い歯科界に関わる社会人として、自分なりの信念を持ち、何ができるか考えて、取り組んでいきたいと感じました。

「私も熊谷先生の医院に通っていれば、こんなに詰め物だらけにならなかつたのに……」
30歳を過ぎてもむし歯ゼロの女性患者を見て、悔しい気持ちになりました。でも80代、
90代でもスルメやキュウリを食べている方々を見て「まだ間に合うかも」と、希望も持つことができました。

日本人の大半は、歯の健康に無頓着です。たとえば雑誌の健康特集に書かれているのは、食事や運動などのことばかり。歯が取り上げられることはまずありません。

私も歯科関連の企業で働くまでは、歯に無関心でした。毎食後に歯は磨いていたものの、むし歯ができたらその都度治療してもらって終わり。このまま歯がボロボロになつたらどうなるかなんて、これっぽっちも考えませんでした。そしてどの歯科医師も、そんなことを教えてくれませんでした。

私の歯をガリガリと削った歯科医師も、むし歯は予防できることを知っていたでしょう。でも「どうせ言っても伝わらない」と諦めていたのかもしれません。熊谷先生は、何十年もかけて患者に予防の価値を浸透させてきました。経営が赤字だろうと罵倒されようと、ご自身の哲学を貫き通した結果です。コンビニの数より多い歯科医院の中から、そんな志のある医院に出会えるでしょうか？ 現状では、運に任せるしかないと思います。

これからは、私たち患者が「むし歯を予防したい。歯を一生涯守りたい」ということを、歯科医院にハッキリと伝える必要があると考えます。そうすれば、本当は予防をやりたかった歯科医師や歯科衛生士のやる気に火がつくのではないかでしょうか。逆に予防に関心がない医院は、どんどん淘汰されていく。こうして患者側から“外圧”をかけていくことで、日吉歯科のような医院のみが生き残ります。

今回の放送は、「むし歯になんかなりたくない」という潜在意識に働きかけ、歯への関心を高める効果があったと思います。放送を見て、予防歯科を行なっている医院を検索した人はかなりいたのではないでしょうか（ちなみにヤフーで“日吉”と入力したら、予測で日吉駅より上位に日吉歯科が表示されました）。今回の放送が、日本人が歯への考え方を変えるきっかけになってほしいと思います。再放送の日時を、フェイスブックで友達に知らせます！

プロフェッショナル
仕事の流儀「歯科医 熊谷崇」について

10月27日放送を拝見し、日本の歯科医院の現状について改めて危機感を感じました。そもそも国のレベルで変化が必要なのかなとも思いました。そのくらい衝撃的な内容と感じて観ておりました。

私自身、子を持つ親としては、自分自身は手遅れであっても、今現在の子供については今のうちからしっかりと口腔内のケアをさせたい、このような気持ちが非常に強くなりました。今回取り上げられていた熊谷先生の意志が、日本の常識として浸透することを願ってやみません。

私が子供のころから祖父や祖母が当たり前のように入れ歯をし、私自身も“年とったら入れ歯か”と当然のように覚悟していたわけですが、今回すごい映像だなと感じたのは、老人がリンゴを食べ、食事が楽しみというシーンで、漠然と歯があればこんな素晴らしい老後があるというイメージはわくのですが、リアルに映像として観ることができ、すごく説得力がありました。

またその具体的な診察の方針や若手医師の葛藤などもリアルの見ることができ、普段通う歯科医院に対して改めて不安感も感じる同時に、歯科医を選ぶ視点も変わるように思います。

今回、大変興味深い映像を観ることができ良かったなと思いました。

今後もこのような身近なことなのに誰も気づかない、知らないような、内容のプロフェッショナルを放送されることを期待しております。

東京都在住
会社員

プロフェッショナル 仕事の流儀 歯科医・熊谷崇の感想

これまで、たくさんのプロフェッショナルの放送を見てきて自分のモチベーションを高めてきましたが、この放送は自分の仕事と深く関係のある人物だったので、特別な思いで見させていただきました。

家族と一緒に見ていたのですが、予備知識の無い人もからみても、とても分かりやすい構成だったと思います。2歳の息子も不思議と画面に見入っていました。熊谷先生から何かしらのパワーを感じたかもしれません。あっという間の50分でした。

歯だけを診るのではなく、患者の人生を診ていく。

そういった信念が熊谷先生を行動させてきたんだと思いますが、まだまだ終わらない、もっとできことがあると、ひたすら突き進んでいく熊谷先生の姿で強烈なシーンがありました。

慶應義塾大学で“唾液からガンを見つける”という研究。

「重篤になる前に介入してあげられる」

「そういったように使われたら本当に患者さんにとってプラスになると思うんですよね」

患者の人生をより良いものにしようと、本気で取り組んでいると感じさせるセリフでした。

熊谷先生のひたむきさ、実直さが素直に入ってきました。

研究自体が、一般人に口腔内を意識してもらう方法として効果が高いと感じましたし、何より、患者の人生を本気で考えているんだだと強く感じられました。

福岡の歯科医師が抱えているジレンマ。

患者のことを聞いて治療していくか、それとも教育を繰り返してより良い人生にしていくか。

多くの歯科医師が似たようなジレンマを抱えていると思います。

でも、この番組を見た人の中には、これまでとは違う歯科医院の見方が生まれたと思います。

そういうパワーを感じさせてくれる番組でした。

【プロフェッショナル感想】

するめを得意げに食べるおじさまのニッコリ笑顔。

「我先に！」と、矯正装置を自慢げに見せる子どもたち。

これからどんな番組が始まるのかある程度予測がついていたにも関わらず、患者さんのイキイキとした表情には胸が熱くなりました。熊谷先生の実績はもちろん、自分もこういう笑顔を増やすために、今この仕事に取り組んでいるのだなと実感できたからです。そして、歯を守っていることの幸せがとっても伝わってきたからです！

私自身、すごくむし歯になりやすい口腔環境でした。当たり前のように治療を繰り返してきたのはもちろん、痛みを回避したくて神経をとってしまった歯もあります。

あのとき先生が私の将来を考えてくれていたら……。

熊谷先生みたいに「神経をとると歯の寿命が半分になるよ！」と言い張ってくれたら……。

そんな思いが込み上げてきて、無力だったころの自分を思い出して切なくなりました。今は歯科業界に入ったことで情報も積み重なり、かなり守られています。でも、本来ならばちゃんと歯科医院から指導をしてもらいたかった……。

途中で、「ライセンスを与えられた者の責任は何か」という言葉が出てきました。資格はただでは与えられないし、本人もいろいろな努力をしてもらっているものです。そして、どんな分野でも資格を取るときはそれなりの覚悟をしているはず。その初心を持ち続けていれば、何年、何十年たっても自分の役割や目標を見失うことはありません。

放映された内容は、視聴者にとってすごく有益な情報だったと思います。この番組を見ている多くの人々の歯科医院に対する心の訴えを、代弁してくれていたからです。「歯医者って何のために治療しているかわからない」「無駄にお金だけをとられているような気がする」という不明確な部分が、こういう歯医者さんなら任せられると思える内容でした。

また、メインテナンスを受けているにも関わらずむし歯になってしまった患者さんや、すぐに治療へ走ってしまった先生の様子など。リアルな部分を見られたのがすごくよかったです。歯医者に不満を持つ反面、いい歯医者に出会ったら安心して任せきりにしてしまう。その結果またむし歯ができたとしても、すべて歯医者のせいにしてしまう。それが、今の患者の現状です。でも、歯に限らず身体って自分自身が守っていくものですね。だからこそ、そこを真剣に説いてくれる医者の存在がすごくありがたいと感じました。

医者って、ただ治すだけの存在ではないんだなということを改めて知らされました。この番組を見て、全国の歯科医師・歯科衛生士はどう思ったのかなというのがとても気になります。やっぱり、なんだかんだ言って今後の患者さんを支えていくのは歯科衛生士なんだということがよくわかったからです！

それにしても、とてもドラマチックで素敵な50分でした！

NHK『プロフェッショナル 仕事の流儀』

プロデューサー殿

「人にフォーカスする」

熊谷先生の放映に限らず、『プロフェッショナル』はそれを見事なまでに体現しています。新しい時代を切り拓くプロの仕事とは何なのか。どんな試行錯誤を経て今をつかんだのか。そして、何を見て突き進んでいるのか。その道のプロの生き様に、いつも心を震わせながら観させていただいている。

さらに、『プロフェッショナル』を観ていていつも思うことがあります。それは、その人の目の奥に宿る怒りや悲しみ、背中が語りかける逞しさや孤独感など、発せられる言葉以外からもメッセージをひしひしと感じる点です。もちろん、数々の修羅場をくぐり抜けてきたプロの言葉そのものにもゾクッときます。それと同時に、その人の非言語な領域。目に見えないはずのオーラまでも的確に映像として捉えているように感じます。

私は今、歯科業界でライターを職とっています。予防歯科を日本の常識にするために。人々が生涯自分の歯で食べ、豊かな人生を送れるように。そのときに大切にしているのが「モノではなく人に焦点を当てる」ことであり、「説得するのではなく感じさせる」ことです。貴殿の番組は視聴者（読者）の視点からも制作側（書き手）の視点からも、そのために必要な多くの示唆を与えてくれます。

たとえば、ポイントポイントで黒地の背景に現れるプロの格言。絵としては静かなのに、まるで言葉が命を宿して迫ってくるかのような動きを感じます。言葉を読ませるのではなく、言葉を魅せて感じさせる。『プロフェッショナル』には、そうした私にとっての宝がたくさん隠されています。

昨晩の放映で、たしか「逃げない、ブレない」という言葉だけが二度、黒地の背景に現れました。なぜ、この言葉だけが複数回使われたのか。それはきっと、この言葉こそが“闘う歯科医師”熊谷先生の本質であり、この言葉にこそ熊谷先生が宿っているからだと思います。一流の治療技術を持つ熊谷先生が酒田市民の口腔内を目の当たりにしたときの葛藤、そこから始まった歯科医師としての哲学、そして生まれた搖るぎない信念。患者利益を追求し、ゼロから挑戦して目的を成し遂げてきた、またこれからも成し遂げていく熊谷先生を映す鏡のような言葉なのではないでしょうか。

私も表現する者のひとりとして、体温を感じられるような人間観あふれる文章を究めていきたいです。熊谷先生が岡先生の問い合わせに対して発した、「だ液検査を使わずにカリオロジーを患者さんがわかるように説明することはできない。そんななまやさしいものじゃない」というメッセージ。相手に伝わらなければ、相手が理解できなければ、どんなに大切な情報であっても無意味です。自分事にしてもらうためには何が必要なのか。どんなツールを使い、どう表現すれば予防の価値を実感してもらえるのか。熊谷先生が私に向けて発してくださいましたメッセージのようにも受け取れました。

これからも『プロフェッショナル』の1ファンとして、情報を発信する側の人間として、番組に注目させていただきます。ますます素晴らしい番組に進化していくことを願っています。

「プロフェッショナル」の感想

熊谷先生のことは知っていました。素晴らしい歯科医師で今なおご活躍していることも知っていました。しかし、今の先生を知っていただけで、どんな想いで歯科医師として今日まで生きてきたのか、その強い信念と決意は番組を通して初めて知り、心から感動しました。いったいどれだけの歯科医師が、自分の歯科医師のライセンスに使命感を持ち、患者利益を考えてくれているのでしょうか。

予防のため歯科医院へ定期的に通う知識を持っていない日本で、しかも地方都市でそれを常識に変える変革を起こし定着させるまでの戦いとご苦労は想像を絶します。本当に強い信念があり、折れない強い心とバイタリティがないと、実現しなかった事でしょう。だれでもできることではない、だからこそプロフェッショナルなのですね。

だ液検査で自分の口腔内の現状を知る、本当にそう思います。自分の細菌の量やだ液の質など、自分のことなのに知っている日本人は、ほとんといないでしょう。しかし、それを知り定期的にメインテナンスに通って自分の口腔状態に合ったセルフケアを続けることで、歯は必ず守られます。

今回の番組で自分の口腔内に興味を持つ人や、痛くなくても歯医者さんに行っていいんだと気づかされた人がたくさんいるのではないでしょうか？

92歳になっても食べることが楽しみ！と言えるおじいちゃん、やっぱり歯を食いしばれるからチカラが出ると言っていた自動車整備工場の方、笑顔で矯正装置を見せていたこどもたち。みんなキラキラしていました。

ずっと自分の歯でおいしくごはんを食べ生活する『患者利益』の視点から生まれた、酒田市では当たり前の予防文化、早く日本の文化となりますように。

番組を視聴して

番組を通して、自分自身の経験や生き方を思い返してみました。

正しいと思っての行動でも相手が理解してくれるか？

そこには信用度と実感度、そして信念（哲学）も関係あるのかなと、感じました。

強い信念があれば、ちょっとやそっとではブレない軸をもって前へ進めるが、

それこそ成功体験がなかつたり、そのものに対する迷いや疑念があると

不思議とそれは相手にも伝わるもので、そこからの不信や離反にもあるのではないか？

と感じました。

確度を上げるためににはやはり場数や経験なのだと思います。

挑戦しながら、質のいい、レベルの高い失敗をすれば、それはまた新しい血肉になる。

そのためにはまずは「愚直なまでに己を信じてやり通す」コレしかないのだなど。

先の放送では、熊谷先生が実践しているだ液検査の導入をセミナーを通して

自医院にも導入するという件があり、それにあたっての壁に直面という事例がありました。

こういった事は歯科界だけではなく、自身の仕事でも言える事で

良いと思える事をそのままやっても

それはただのコピーにすぎないという事です。

思いは素晴らしいけど、心が入ってない（とも言える）。

やはり、こういったケースの場合は

「どうすればそれを自分のものにする事ができるか？」

という“自分スタイル”的模索が必要なのだと感じました。

そこについては、考えて考えて考え抜く。

それくらいの覚悟と決意が必要だと感じました。

そして目線。患者さんと同じ言葉は話せても
同じ目線やレベルにいるのか？その言葉は心に響いているのか？
人はガンや自動車事故等に対しては、そうなってからでなくとも
「保険」という形で事前の投資（出費）をしています。
けれども、歯にたいしては皆直接的な影響がないという思いがち（思い込み）です。
ともに、老後を危惧してだったり、予防＝“将来への備え”という部分では同じにも関わらず。
なので、その現状を認識してもらう事が急務なのだと痛感しました。
言っている事の意味はわかる、でも本当に理解しているのか？
真の相互理解のためには長期的な計画や、仕掛けが不可欠だったり
それ相応のインパクトが必要であると
さらに思いを強くした次第です。

「プロフェッショナル」は大学生当時教授に薦められたことからよく観ていて、とても好きな番組のひとつです。毎回登場する人たちの言葉にとても説得力があり、当時学生だった私も心を動かされました。観た後は影響され「その職業を目指そうか……」という気持ちになったほどです。

私が何度か番組を見るなかでいつも感じているのは、分野は違えどその道を極めた人たちには共通点があるということです。どんな仕事をしていても、本質にあるものは同じなのだと気づかれます。とくに「誰かのために」という姿勢は、今回の熊谷先生からも強く感じました。確かに、「プロフェッショナルとは期待に応えること」とおっしゃっていた方がいると思うのですが、仕事とは「自分のことを求めてくれる誰か」がいて成立するものなんだなあと。実際社会人になり仕事をするようになり、毎日実感、納得しています。なかでも今回は、医療に携わる人ならではの志の高さ。ある意味「誰かのために」の究極の形を見せていただいたのではないかと思います。

一方で、もちろん新たな発見もあり、熊谷先生の最後の「プロフェッショナルとは?」の問い合わせに対する答えには、大きな気づきがありました。

「あえて困難な道を選択し、既成概念や固定観念にとらわれず、情熱を傾けて、創意工夫し、ブレずに目的を達成しようと努力する人」

全てが私が今している仕事に必要なことです。目的やターゲットを定め、ブレずに貫くこと。そのうえで新しい発想や切り口で表現すること。それは難しいことにあえて挑戦することではじめて実現できること。言うのとやるのは大違いだと思いますが、私もいちプロとして、せめてそれを実現しようとする姿勢だけは持ち続けようと思います。

最後になりますが、番組に出てきた岡医師が熊谷先生に支持しているのと同じように、私も今先輩から教えられる立場です。常に新しいことに挑戦し続ける先輩のもとで、ただその道をなぞることしかできずに、それすらできずに苦しむことがあります。けれど、見本を示してくれる先輩がそばにいるということは、とても恵まれた環境なのだと感じています。きっとそういう人がそばにいない、これから「プロフェッショナル」を目指す人たちにとって、この番組は「先輩」の役目を果たしてくれるものだと思います。これからも、いい番組を作り続けてください。

自分の口腔内にあった適切なセルフケアの方法と定期的なメインテナンス通院。これを一日でも早く、一歳でも若いうちから始め、あたりまえの習慣にすることが、生涯の健康な口腔環境、快適な人生（そして、番組ででてきたような、たくさんの笑顔）につながる。そのためには、熊谷先生のように、うまくいかないことがあっても逃げず、芯がブレないよう目指す方向を明確にして突き進む。予防医療に取り組むことへの使命感と意欲がとても高まりました。素敵なお番組をありがとうございました。

※追伸

会うたびに私からいろいろな口腔ケアの話をし、フロスはなんとか使い始めたものの、まだメインテナンス通院を始めてくれない友人がいましたが、番組を見て「やっぱりメインテナンスに通うことになった」「歯科医院に行くのが楽しみになった」という連絡がありました。あんなに口をすっぱくして言ってきかなかつた、あの友人が1時間の番組をみてコロリと変わった姿を見て、熊谷先生の生き方・姿勢、そして映像の威力を目の当たりにしました。あの番組を見てテレビの前で驚く人や、番組をきっかけに自分の歯の健康について考えなおした人たちの姿を想像するととても幸せな気分になります。これからも、素敵なお番組を楽しみにしています。

『プロフェッショナル 仕事の流儀 歯科医・熊谷崇』を見て

特に印象的なことが 3つあった。

ひとつは、酒田の人たちの笑顔と言葉。

するめやリンゴを丸かじりする人の「やっぱり誇らしい気持ち」。

晩酌を楽しんだ人の「深酒しても歯磨きを欠かさない」。

かつて女子高勤務で口臭で悩んでいた人の「もう隠さないでいい」「笑える」。そして「こういうのを幸せって言える」。

これらは絶対に『人々のひとつの幸せの形』なのだと感じた。そして、それを実現したのが熊谷先生なのだと知った。

もうひとつは、もちろん熊谷先生ご自身の行動と言葉。

「スタッフも患者も快適に」と、早朝から自らエアコンのスイッチを入れて人を迎える準備をする姿に『凄み』のようなものを感じた。

「プレゼン王道を歩む」「正攻法で行く」。この言葉は自分に強く響いた。ということは、歯科界でも、社会でも、人々の中でも、「王道」や「正攻法」がいつの間にか隅に追いやりかれていることを示しているのだと思う。そして自分の中でも、それらはないがしろになつていなかろうか。うまく立ち回ろうとしてはいないか? を突きつけられたと思う。

歯科において「王道」とは、目先のことではなく、患者さんの人生全体を考えて本当に利益になることを提供すること。すなわち、歯を守ること。

日本における歯医者は「痛くなったら行く所」。それを「痛くならないために行く所」に変える。それは、熊谷先生ご自身が貫いてきたとおり、「闘い」なのだと思う。

その闘いの中身は、患者さんの意識を変えること。そのために必要なものは必ず使う。時間やお金、人などの資源はもちろん、重要なのは番組の中でもフィーチャーされていたツール、「だ液検査」。それを患者さんに実施するにあたって苦惱する先生も登場していたが、番組の中でも触れられていたとおり、むしろコストは「安い」と思う。

虫歯の成り立ちや予防の仕方を教え、モチベーションを上げる「だ液検査」は患者さんの人生を変える。そう考えると、歯科の王道を歩むには絶対に必要なものだと思う。

そしてもうひとつ、熊谷先生が酒田市で実現したことは、日本全国で行なわれなければならぬと感じた。王道や正攻法がいつまでも特別なものであつてはいけないと思うからだ。人は誰でも幸せな人生を送りたい。歯科を通して『ひとつの幸せな形』とそれを実現する方法を熊谷先生が示してくれた。自分は歯科業界に携わる人間である。このことを肝に銘じたいと思う。

『プロフェッショナル 仕事の流儀』 感想

今の歯科医療の問題を浮き彫りにしつつ、ポジティブな未来を感じさせて終わるこの番組の構成はとてもすばらしかった。

熊谷先生のやっていることを単に紹介するのでは、「珍しい歯医者さんがあるな」くらいの印象で終わってしまったはずだが、やっていることの裏にある哲学や信念がしっかりと表れていたので、「こういう歯医者さんに行きたい」「こういう歯医者さんに行かなければ自分の歯は守れない」という想いを搔き立てることができたと思う。

感銘を受けたのは、唾液検査を行なうことの意味について。通常の歯科医院を含め多くの医療機関では、患者の現状を医療者として知るために検査を行なう。そこには、調べるものと調べられるものの関係、医療者が上で患者が下という上下関係があり、患者は自分自身のことや本当の想いを話す機会はない。「先生におまかせします」という言葉に表れているように、自分の体のことなのに自然と受け身になってしまふ。

でも熊谷先生にとっては、患者さんのモチベーションを上げることこそがコミュニケーションの要。唾液検査もそのためのツールと考える点に、自分視点ではなく徹底的に患者視点で向き合う姿勢が表れているように思う。そしてそれが映像の随所に使われているため、観る人の印象に強く残ったのではないかと思う。

また、熊谷先生の取り組みがうまくいかなかったケース（土門さんのエピソード）をえて紹介しているのが、この番組の構成の一番のポイントだと思った。熊谷先生や歯科衛生士の本当に悔しそうな責任を感じている表情から、逆説的に熊谷先生の信念や哲学が浮き彫りになったし、土門さんの残念そうな表情には、「自分も家でのケアをしっかりすべきなんだ」ということが確かに伝わったことが表っていた。

まず歯科医療従事者にとってこの番組は、自分のしていることを振り返るきっかけとなり、今後の変革につながるのではないか。そして一般の人にとって「自分の体を守るのはあくまでも自分でそれをサポートしてくれるのが医療者である」というように、医療観や認識が変わるきっかけになるのではないかと思う。

口腔の健康は全身の健康に関わり、人の人生を大きく左右する。それにもかかわらず日本の歯科界には大きな問題がある。一般の人の予防メインテナンスへのプライオリティも低い。今後も継続的に“歯科”を切り口とした番組を放送し、日本人の認識や健康観を少しづつ高めていってほしいと感じた。

【番組の感想】

健康のために通える歯科医院の必要性を改めて実感！

10月27日放送のプロフェッショナルを見て改めて、実感したこと。

それは、“健康のために通う歯科医院が日本中に増えたらもっと生きやすく元気な国になれるということ”です。

そのために、だ液検査が普及し、日本人がメインテナンスに通うという概念がもつともっと現実のものになっていくことを心から望みます。

今回の放送は、ただ熊谷先生の信念や哲学、功績を伝えるだけにとどまらず、一般の人が気づいていない歯医者さんの関わり方や歯科衛生士の存在、だ液検査の必要性、そして実際に歯科医院がかかえる患者さん教育などの問題点などについても映像にあらわされていてインパクトがありました。一人でも多くの方に、新しい歯医者さんとのつきあい方を知ってもらうきっかけとなる、とても意義のある内容だったと感じています。

するめをおいしそうに食べるおじいちゃん、子どもの頃から通い続けた結果カリエスフリーの女性、女子高の先生をしていて口臭を気にすることなく自信も持てて笑えるようになったという住職の方。番組に出た方々の笑顔が印象に残っています。

熊谷先生の逃げない・ぶれない姿勢から何が生まれたのか？ ひとつの医院が人口11万人の1割をメンテナンスに通うように変えた事実を映像で目の当たりにし、まだまだ日本の歯科、日本の社会はよい方向へ変わっていけることを確信しました。そのためには、本当のことを伝えてくれるメディア（プロフェッショナルのような番組）のチカラが必要だと感じます。もっともっと多くの日本人に、歯の健康を守るためにオーラルケア（特に番組で取り上げてくれていたフロスなど）、生涯自分の歯で噛めて元気でいるための歯科との関わり方を知ってほしいと心から思います。そのよいきっかけを与えてくれた1時間でした。

「プロフェッショナル仕事の流儀

第242回 ぶれない志、革命の歯科医療　歯科医・熊谷崇」を見ての感想

すべての歯科医は、当たり前だけれども患者さんの幸せや健康を強く願っていると思うが、熊谷先生の姿勢を見ていて感じたことは、患者さんの“本当の”幸せや健康を常に最優先にしていることだと思いました。

患者さんが痛いと訴えればむし歯を治療する、忙しくて通う時間がないと言えばまず治療をするなど、一見患者さんのためにしていることだが、患者さんの将来を考えれば、どうしてむし歯ができてしまったのかをきちんと理解させ、普段のセルフケアがいかに重要かを強く意識させる、その上でメインテナンスに定期的に通うことが“本当の”幸せや健康につながるということが、とてもよく理解出来ました。そのような姿勢が真の患者利益を見据えることであり、患者さんと真摯に向き合うことなのだと思います。

そして、口腔内の現状を知らせるため、予防がいかに重要かを知らせるために使用していたツールに非常に興味を持ちました。単に会話で状況と対応策を説明していくのではなく、様々なビジュアルを用いて患者さんの口腔内の過去・現在・未来へとつないでいくことで、予防の重要性を強く意識させ、自分のこととして関心を持たせることに成功していると感じました。

最後に、熊谷先生がプロフェッショナルとは…との問い合わせに対して、「あえて困難な道を選択し、先入観や既成概念にとらわれず、情熱を持って創意工夫をし、ぶれずに目的を達成しようと努力する人」との言葉は、どんな仕事においてもプロフェッショナルであるためには、必要な姿勢なんだと痛感しました。

自分自身まだまだ至らないことが多いが、将来、自分がプロフェッショナルとして仕事をしてきた振り返るためにも、今回受けた刺激を糧に、困難に遭遇した時にも、現在の仕事を選んだ時に感じていた思いを振り返ったり、何のため、誰のためにしている仕事かを“意識”していきたい。仕事とは？プロフェッショナルとは？と改めて振り返るとても良い機会になりました。素敵な番組をどうもありがとうございました。

“プロフェッショナル仕事の流儀”『ブレない志、革命の歯科医療 熊谷崇』を視聴して

2014年10月27日に放送された“プロフェッショナル仕事の流儀”には、非常に心を揺さぶられました。いつものプログラムに増して秀逸だと感じます。私は歯科の業界に身を置くもので、一定以上の知識があります。しかし、一般の視聴者にも歯は守れる、それを実践している歯科医院があるが知らされたことに大きい意義を感じました。

大多数の歯科医師が歯だけをみて、人間としての患者さんをみようとしないのが現在の歯科だと思います。そうであるから、治療だけをして、それが終了すると患者さんはもう来院しない。その後の患者さんがどうなろうと関心がないというようなことが起こるのだと思います。その中にあって「患者さんの人生をみる」と明言する熊谷先生の言葉に本来の歯科のあるべき姿をみた思いでした。

常に患者さんの視点で医院のマネージメントを行なう。患者教育に力を注ぎ、予防を実践する。そして、現在に至るまでには想像を絶するご苦労。経営的にも大変な時期があつたことが話されていましたが、「逃げない、ブレない」を貫き、苦境に立っても信念をもつてやり抜く熊谷先生に人間としての凄味を感じました。

「患者利益をもたらすことが歯科医師の責任」ともありました。私は企業人ですので、置き換えると「顧客利益をもたらすことが企業の責任」となります。しかし、どのレベルで腹を据えて実践しているのか振り返る機会も与えてもらいました。

私もこの何年かは歯科衛生士さんのメインテナンスを受けるために定期的に歯科医院に通っています。しかしながら、それ以前は歯科の治療経験も多くあります。その一方で小学校高学年の愚息はカリエスフリーです。フロスも毎日欠かしませんし、メインテナンスにも喜んで通っています。私の幼少期とは大違いです。欧米のようにカリエスフリーが当たり前と認識される時代が早く来る事を願ってやみません。

今回の番組のプロデューサーの方にも敬意を表します。

歯科のことをよく勉強され、予防の価値を一般の方に分かるようにプログラムされていると思います。

特に冒頭の高齢者の方の映像やお話は素敵でした。歳をとったら歯がなくなるのではなくて、しっかり食べて活力溢れる人生が送れることがスッポリと入ってきました。

また、いい話だけでなく、長年メインテナンスに通いながらもカリエスを発症した患者のケースや予防の実践にもがいでいる別の歯科医師の方を登場していることも、リアリティを高める働きをしていると感じました。

番組を見終えたとき、えも言われぬ胸の高ぶりを覚えました。

ありがとうございます。

プロフェッショナルを見て

番組を見て一番に感じたのは、人間成し遂げたいことがあるなら、プレない志を持つことが大事だということです。熊谷先生の歯科医師としての生きざまが、そのことをひしひしと感じさせてくれました。

特にそう感じたのは、福岡の歯科医師が患者さんの主訴にすぐに応えて治療をしてしまったとき。熊谷先生の「私だったら治療はしない」という言葉に、本当に大切なことを人にわかつてもらうには、媚びてはだめなんだ、負けてはだめなんだと思いました。

また、いち患者として。

私もこれまでまさに口しか診ていないような歯科医師の治療を受けてきました。いい歯医者=治療が痛くない歯医者。きっと世間の人もそういう考え方だと思います。そういう人たちにとっては、歯科医師はむし歯を治す人以上でも以下でもなく、何の感情も抱かない相手だと思います。

でも、熊谷先生のようにひとたび視点を広げ、未来のことを考えた診療をしてくれると、一気にあたたかみが増し、生涯のパートナーとなっていくんだと感じました。

医療従事者と人と人の付き合いができる。このことが、今回テレビを何気なく見た一般の人にとっても強い衝撃になったんではないかと思います。

せっかく今より健康になりたい、安心して毎日を過ごしたいと思って医院を訪れるのだから、お互いに機械のような関係ではもったいない。表面に見えている問題だけじゃなく、もっと奥のほうにあることまで一緒に解決して、いい将来を目指していくのだと伝わったはずです。

私は歯科関係のこの会社に入り、自分の周りの人たちにも少しずつ口腔内が健康であることの大切さを伝えています。でも、なかなかうまく自分事にとらえてもらえないことが多くて。今回番組を見ることで、歯科医師自身が患者の健康のためにここまで悩んで伝わった姿が、説得力となるなあと感じました。

このビデオとともに、家族や友人にもっとオーラルケアの大切さを伝えていこうと思います。